

# うひはたぶみ (初機踏)

H.A.M.A.木綿庵だより  
第51号

2021(令和3)年3月26日

(編集発行 梅田正之 090-5042-7775)

## 大和機での3作品目 — よこがすり くふうがすり 緯 緋の工夫 緋:「時代」 —

大和機(やまとばた)を用いて織った3作目の作品を、7ヶ月ぶりに織り上げることができました。整経長600cm。整経重200g。織り巾39cm。経糸数728本。織り上がりの長さ502cm。織り上げ重352g。織筈45度。緯糸密度18本。湯のし後の巾38cm。長さ480cm。重量348.0g。経糸は30番双糸。地糸に藍紺を用い、浅葱(あさぎ)、瓶覗(かめのぞき)、クリーム色で縞を構成しました。緯糸は14番単糸で藍紺の糸と緋糸を用いました。作品としては19筋の縦縞に緯緋が入る工夫緋となります。

今後の参考資料とするために、整経から織り上げまでの記録を以下に記しておきます。

整経は、2020年9月3日。織り巾40cmとし1cm9羽の竹筈を使用。双羽で1cm18本。基本の経糸は18本×40=720本。両端に2本取りを加えて総経糸数は728本となります。

縞柄(しまがら)は1種類。浅葱(あさぎ)2本、クリーム2本、瓶覗(かめのぞき)2本。以上6本で1縞を構成します。縞は19筋のため6本×19縞で色糸は114本。720本から色糸114本を差し引いて地糸は606本となります。本来であれば両端合わせて1筋の縞が入る計算のため、1縞分6本を引いて600本。縞と縞の間の地糸の列は20列となり、600本を20列で均等に配すとすれば1列30本となります。なお、両端の1縞分の6本を2本と4本に分けて左右に配します。したがって右端列は30本+2本+2本取りの4本=36本、左端列は30本+4本+2本取りの4本=38本となります。30本×18=540本。そこに36本と38本を加えて地糸614本となります。

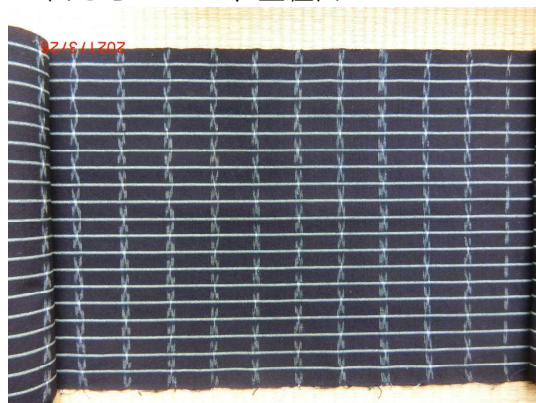
糸枠は、右から瓶覗1枠、クリーム1枠、浅葱1枠と、地糸6枠の順で並べます。縞は1種類3枠しかなく、色糸3本のみで畦を取るのもったいないため、色糸3枠と地糸3枠の計6枠(12本)で1セットとしてこれを仮にAとします。一方、地糸6枠(12本)で1セットとしこれを仮にBとし、地糸8枠(16本)で1セットをB'とします。このA、B、B'の組み合わせで整経を行いました。

右端から BBB(36本)、ABB(36本)、ABB、…(ABBを計18回繰り返す)…、左端 AB' B'(44本)。これによって、36本+36本×18回+44本=総経数728本となります。

次に緋糸の準備です。使用した緋糸の括り枠1周の長さは82.5cm。糸の縮みを考慮すれば、織巾40cmの緯糸に丁度です。今回の緋は1縞飛ばしに×を描くような模様です。両端合わせて1縞と考えれば、40cmに10個の×が入ることとなります。括り枠は1往復分の模様を入れることができるため、1周を20等分して糸を括ります。括る長さは1括り5mmです。緋柄は、天から天までの長さを4cmとし、整経長600cm÷4cm=150。6mに150回の緋柄が入るということで、1mあたり25回の柄が入ります。1柄には6段(6本)の糸が入るため6段×25=150段(本)。整経長6mのため150×6=900段の緋糸が必要となります。緋糸は100本を1束にして括るため1束で200段となり、900÷200=4.5束。予備を含めて緋糸を5束括りました。

巻き取り2020年9月4日。綜統通し2020年9月13日、20日。筈通し2020年9月27日、10月11日。織り付け10月12日。織り上げ2021年3月5日。題名は「時代」。

前作と基本のデザインは同じ。縞数を増やし緋模様を細かくすることによる印象の変化を確認するための習作です。



大和機で織り上げた緯緋(工夫緋)

### Monthly Data

【天理やまのべ木綿庵】(問い合わせ件数 令和3年2月24日~令和3年3月23日)

愛知県2、三重県1、兵庫県1、岡山県1、徳島県1

【H.A.M.A.木綿庵】(令和3年2月24日~令和3年3月23日)

メールを含む各種相談件数4、綿畑や作業場の見学を兼ねた事前申込済来庵者数12件16名



## 《綿の栽培記録 2021》－ 令和3年度版 その2－

天理市乙木町における梅田の感覚的観測データです。○=晴れ。△=曇り。×=雨。○/×=晴のち雨。○|×=晴時々雨。  
△:×=曇り一時雨。2月26日 △|×、27日 △、28日 △|○、3月1日 ○|△、2日 ×/△、3日 ○|△、4日 △、5日 ×|△、6日 △、7日 ○|△、8日 ×/△、9日 △|○、10日 ○、11日 ○|△、12日 △/×、13日 ×/△、14日 ○|△、15日 ○|△、16日 △|○、17日 ○、18日 ○、19日 ○、20日 △|○、21日 ×、22日 △|×、23日 ○|△、24日 ○/△、25日 ×/△。

綿を栽培する予定の畝をとときど耕耘して土をほぐし、休ませています。草の勢いが凄まじいです。

### 《第12回相楽木綿作品展 — 京都府相楽郡精華町 —》2021年3月8日(月)～3月14日(日)

相楽木綿伝承館機織り教室の作品展が上記日程で開催されました。会場は京都府相楽郡精華町にある「けいはんな記念公園水景園」内のギャラリー月の庭。昨年はコロナ感染症の影響で中止となったため、2年間の成果の中から選りすぐりの作品が展示され、見応えのある作品展となりました。会場には会員、研究生、専科生、上級生、中級生、初級生の作品が同じフロアに並べられ、技術の難易度や熟練の技の巧みが一目でわかる楽しさもありました。なお、専科生梅田の作品は、経伊達緋(たてだてがすり)ポーチ、緯緋布(よこがすりふ)2作の計3点が展示されました。

### 《草木染め：桜の小枝、キハダの樹皮、椿の花びら染め — 令和3年3月23日》

花が咲き始めた桜のひこばえ(木の根元の方から生え出る若枝)や幹の途中から生え出た若芽を用いて染めてみました。煮出して抽出した染液では色が出ず、そのまま丸1日浸けたままにしておいたところ、色が出てきました。桜の染液はしばらく寝かせて用いると良い、という話をお聞きしたのはその後のことでした。キハダ(黄蘗)の樹皮からは鮮やかな黄色を抽出することができました。3番液まで採ったところ、3番液は透明に澄んだきれいな液で、混ぜて使うのがもったいないほどでした。黄蘗は媒染をしたものではないもので比較を試みました。今回の実験では色の発色と定着に差は認められませんでした。椿の花びらは、紅花染めにならってすりつぶし、3ℓの水に10gのクエン酸水溶液をつくり染液を揉み出しました。新鮮な椿の花びらを3.5kgも用いることができたのは、天理市内にある椿園・カメラア岩屋様のおかげです。写真左から：桜の小枝、黄蘗の樹皮、椿の花びら。椿の花びら染めのハンカチ。右端は上が桜、下が黄蘗のハンカチ。



#### 【綿の加工の作業記録】 (梅田 1 人の作業量)

- 糸車を用いての糸紡ぎ量 (和綿：平成30年, 2018年産。丹羽正行氏による打ち綿)  
2月24日～3月23日 (作業実日数19日) 糸の総量61.1g (16.3匁) 総時間224分 (3時間44分)  
※1分間≒0.273g 1時間≒16.4g (4.4匁)

#### 【研修等の記録】

- 令和3年03月09日 「第12回相楽木綿作品展」(京都府相楽郡精華町：けいはんな記念公園) 会場当番。
- 令和3年03月10日 「第17回試作竹箴と織布帛展」(岐阜県瑞穂市：瑞穂市総合センター) 見学。
- 令和3年03月11日 奈良県主催「農産物直売所セミナー：農産物の部」(天理市文化センター) 参加。
- 令和3年03月11日 ボーケン品質評価機構より、依頼していた綿の品質検査報告書が届く。
- 令和3年03月14日 「第12回相楽木綿作品展」の会場撤収、作品受け取り。
- 令和3年03月22日 「相楽木綿伝承館：機織り教室専科」(京都府相楽郡精華町)にて巻き取り。
- 令和3年03月25日 「相楽木綿伝承館：機織り教室専科」にて経緋糸糊付け、糸綜紬作り。
- 令和3年03月26日 丹羽ふとん店(名古屋市)の丹羽正行氏より、綿打ちを依頼していた打ち綿が届く。